

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和4年11月定例会)

○ 日 時

令和4年11月10日(木) 午前10時00分～11時45分

○ 会 場

生涯学習支援センター 5階 第一セミナー室

○ 出席者

〔委員〕 相澤雅子委員、市瀬智紀委員、伊藤美由紀委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、
佐藤正実委員、鈴木京子委員、福士定男委員、牧靖子委員、松田道雄委員、三浦和美委員
(欠席：熊谷敬子委員、菅原正和委員)

〔事務局〕 生涯学習支援センター長 武者
生涯学習支援センター次長 内海
生涯学習支援センター事業係長 横山
青葉区中央市民センター長 佐々木
宮城野区中央市民センター長 石川
若林区中央市民センター長 梅沢
太白区中央市民センター長 猪股
泉区中央市民センター長 内海
生涯学習課長 田村
地域政策課長 市川
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
市民センター課長 佐藤
(欠席：生涯学習部長 柴田)

○ 傍聴人

なし

○ 資 料

次第

資料1：令和4年度 仙台市公民館運営審議会 事業視察実施概要

資料2：本日の協議の進め方について

資料3：今後の進め方について

※ 会議の概要

1 開 会

事務局：定刻になりましたので、始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、令和4年11月の仙台市公民館運営審議会を開催いたします。

初めに資料の確認をお願いいたします。次第と資料1～3を事前に送付させていただいております。それからグループ討議時のレイアウト図を本日お配りしております。皆さんお揃いでしょうか。

本日は熊谷委員と菅原委員の2名から欠席のお返事をいただいております。それから市瀬委員につきましては、授業の都合で少々遅れていらっしゃるというふうに連絡をいただいております。

よって、本日は市瀬委員を含めて10名の委員の皆様に出席をいただいております、委員の過半数である7名以上の出席を満たしておりますので、市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により、有効な会議として成立しております。

続きまして、事務局より本日の出席職員のご報告をいたします。生涯学習部長の柴田が本日は勤務の都合により欠席しております。ほかは全員揃っております。

それでは、議事に入ります前に、生涯学習支援センター長より1点ご報告がございます。

生涯学習支援センター長：皆様おはようございます。

いつも公民館運営審議会のご理解ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

また、先日は視察へのご対応、誠にありがとうございました。現場にていろいろ励ましのお言葉などもいただき、皆本当にありがたいと考えております。

私のほうから、市民センターにおきまして不適切な会計処理案件がありましたので、これにつきまして概要をご報告させていただきます。

幸町の市民センターで、地域の皆様と共にふれあいまつりということで市民センターのお祭りを実施しておりますけれども、市民センターが事務局になっている実行委員会の会計において、職員が現金9万円の紛失ですとか、3万円を引き出して個人で保管したり、また通帳を破棄したりというふうな、大変不適切な対応がございました。

これにつきまして、11月7日付で指定管理者である仙台ひと・まち交流財団から、当該職員の懲戒免職と、上司の減給、口頭注意という処分がございました。市民センターに対する信頼を損ねる事態となりまして、私からもあらためてお詫びを申し上げます。大変申し訳ございません。

市民の皆様と共に生涯学習・交流・地域づくりを進めていくということが、市民センターとして何より重要でございまして、地域の方々、利用者の方々との信頼関係の構築というところが、その基本となるものと考えております。

今後は再発防止の取組をしっかり進めていくことが重要でして、事務マニュアルを改訂し、実行委員会会計を公金と同様の手順とする規定を定めました。また、実行委員会への報告の義務づけなども決めて定めております。そしてコンプライアンスあるいは組織管理に関する研修というものも行いまして、適正な職務執行に向けて、意識づくりを組織として取り組んでいくということにしております。

こうした指定管理者の取組について、仙台市としても注視しまして、助言等必要な支援を行っ

てまいります。必要なチェック機能を果たして、市民センターの適切な運営を確保してまいりたいと考えております。私からはご説明以上でございます。

事務局：ただいまの報告につきまして、委員の皆様から何かご意見やご質問等ございましたら、お願いしたいと存じます。

[発言なし]

事務局：よろしいでしょうか。

それでは議事に入りますので、ここからは松田会長にお願いいたします。

会長：はい、皆さんこんにちは。よろしくお願ひいたします。

それではさっそく進めさせてください。

この会議は原則公開となっております。本日は傍聴のご希望はありますでしょうか。

事務局：本日はございません。

会長：はい。ありがとうございます。

では次に、議事録の署名委員です。名簿順で前回は大内委員にお願いしました。今回は幾世橋委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

2 協 議

会長：では、さっそく2の協議に入りたいと思います。

まず、(1) 住民参画型学習事業の視察について、事務局より報告をお願いいたします。

この後にまたグループ討議で深掘りタイムというふうにして、その成果と課題について、ちょっと深く議論させていただきたいと思いますので、その辺のところ踏まえながら、ぜひ聞いていただけるとありがたいと思います。

じゃあよろしくお願ひいたします。

事務局：はい、それでは資料の1をご覧くださいと思います。

[スクリーンに資料投影]

事務局：視察の内容につきましてご報告をいたします。なお、正面のスライドで当日の様子などを見ていただきながらお聞きいただければというふうに思います。

「住民参画型学習事業の視察について」でございます。

まず初めに行いましたのが、「かむりの里いきいきプロジェクト」でございました。

これ、9月18日の日曜日ですが、根白石の見松寺というお寺を会場にして行いました。当日は一般参加者35名、それから企画員の方8名が参加しております。

こちらの右上の建物がその見松寺のお寺の境内でございます。この事業は若い方々の感性を生

かした事業になっておりまして、地域の比較的若い方々が企画員となって、企画をした事業でございます。それで、市民センターの尽力で、地域の商店街の協力も得ながら展開した事業となっております。

何といたってもお寺が非常に協力的で、この右下の写真を見ていただきたいんですが、中心でクラフトの製作の指導をしておりますのがこのお寺の副住職さんで、副住職さん自らが作業着に着替えて竹を割る指導をしていただいているという画でございます。このようにお寺が地域に非常に協力的であるというところが、この事業の特徴だったと思っております。

それで、皆さんこの右下の写真のようにクラフトづくりを楽しんだ後、審議会の委員の皆さんも、見学ということだったのですが、最後はもう参加者と一緒にクラフトづくりを楽しんでいるといったような場面もございました。

クラフトづくりの後、最後は参加者全員でお寺の境内に入って、住職さんからの説教を聞いた後、皆が座禅を組んで終わったというところでございます。

この企画員の皆さん非常に熱心な方々で、この翌月の10月に行われました「IZUMI コメフェス」の企画にも携わるといったような形で、この事業にかかわらず、根白石のまちの盛り上げに非常に意欲的であったというのが大変印象に残っている事業となっております。これはいわゆる大人事業の視察でございました。

次ですが、2番目の子ども事業の視察でございます。

事業名は「中山キッズ」でございまして、中山市民センターと青葉区中央市民センターがかかわって実施した事業となっております。

視察日は10月9日の日曜日、中山市民センターで行いました。

当日の参加者は一般参加者が9名、企画員の生徒さんが6名ということになっております。企画員は青陵中等教育学校の生徒さんで、6年制の学校——いわゆる一般でいうところの中学校の学年と高等学校の学年の皆さんと一緒に企画をしているという事業でございます。

この日に行われたのが、小学校の低学年の親子を主に対象とした「ペーパーアートを楽しもう」という企画でした。ハロウィンが近いということがあって、そのハロウィンを意識したペーパーアートをつくったということでございます。

この企画員の皆さん本当に非常に熱心で、この企画のために月に1回ずつ集まって、企画の内容を練りに練った、それでみんなを楽しませたいという思いが非常に強いイベントであったかなと思います。

これが、高校生の企画員が子ども達、参加者にペーパーアートのつくり方を教えている写真でございます。

実はこのイベントの前日の10月8日にもイベントを行っておりまして、小学校の高学年を対象にした「キンボールで遊ぼう」というイベント、こういったイベントにも取り組んでいるところでございます。

最後は、参加者の子ども達と一緒に写真を撮ったものですが、皆さん満足そうなのか、やってよかったなという充実感にあふれた事業になっていたかなと思います。

3番目ですが「若者事業」でございます。

事業名は「まいぷろ」という事業で、宮城野区中央市民センターが実施した事業でございます。実施日は10月22日で、会場が宮城野区中央市民センター、参加者は11名となっております。この企画員11名、尚綱学院高校の生徒さんがほとんどですが、今年から宮城野高校の生徒さんも

加わったということでございます。

その高校生が企画員として参加したわけですが、元河北新報の記者の佐藤和文さんという、スライドの左下の写真に写っているこの方が講師ということで、まずは7月から10月にかけて宮城野区内の施設やあるいはその地域活動の様子を取材し、この視察当日にはそのまとめを行っているところです。

元新聞記者である講師の指導によって、皆さん取材先で聞いてきたメモを、右上の写真がメモをまとめる作業を行っていたところですが、いかに論理的に、相手にわかりやすく整理するかといったところを、プロの技術を教わりながら行っていたというのが非常に印象的でした。

12月に発表会が行われるということですが、こうして自分達の独自のやり方だけでなく、プロの指導が加わって、自分達で見聞きしたことを論理的にきちっと整理をして発表するという過程を踏んでいくという意味で、企画員にとって非常に得難い体験になったのではないのかなど。その1回目を我々はこうして見せていただいたということになるかと思います。

事業の概要については以上でございます。

会長：ありがとうございます。

改めて今写真で拝見しまして、本当に委員の皆さん、視察お疲れ様でした。

段取りしてくださいました事務局の皆様方、受け入れてくださった市民センターの職員の皆様方、本当にどうもありがとうございました。

それでは、これからの進め方ですが、担当した視察ごとに分かれてグループをつくって、深掘りタイムというふうにいきたいというふうに思うのですが、皆様いかがでしょうか。

[発言なし]

会長：よろしいですか。

では、具体の進め方について、事務局からお願いいたします。

事務局：それでは、資料2をご覧いただきたいと思います。

ただいま説明しましたように、住民参画型学習事業について3つの事業の視察を実施いたしました。

視察を担当した事業ごとにグループに分かれていただいて、事業の成果と課題について、あるいは今後期待することについて、今後この事業がよりよい事業になるための意見をいろいろ頂戴したいと考えております。

この後、会場のレイアウトを変更いたしまして、各グループに分かれていただきます。グループ分けはお手元にあるとおりでございます。

各グループの担当として社会教育主事が2名ずつ入ります。1名が進行役となり話し合いを進めます。議論の内容はもう1名がホワイトボードに記録いたします。各グループの議論の内容につきましては、進行役を担当した社会教育主事が1グループ大体3分の目安で報告をいたします。

最後は意見交換とまとめでございますが、本日の議論の報告等に対しての意見や感想、質問等を各委員が発表し、本日の協議をまとめるという形にしたいというふうに考えております。

会長：ただいまの事務局からの説明について、何かご質問あるでしょうか。

[質問なし]

会長：よろしいでしょうか。では本日の審議は、資料の2のとおりグループ討議で進めるということ
でよいですかね。はい。よろしくお願いいたします。

いつもいつも毎度ですが、社会教育主事の皆様方には名ファシリテーター本当にありがとうございます。

では、事務局にお戻しします。

事務局：それでは、机の移動をこれから行います。

[グループ討議]

会長：短い時間の中で、各グループ闊達な議論ありがとうございました。社会教育主事の先生方も進
行ありがとうございます。

それでは、各グループでどのようなお話しになったのか、社教主事の先生方のほうから発表お
願いいたします。

事務局（第2グループ担当職員）：それでは、10月にあった子ども事業の「青陵プロジェクト in 中山
キッズ」の視察についての振り返りということで、今皆さんからお話しをいただきました。

評価シートが事業の目的・進め方・成果と3つの項目になっておりますが、話をしているうち
に、最初は目的だったのかなと思っても少し進め方に入ったりとか、ちょっと前後していますけ
れども、かいつまんで順番に説明いたします。

まず目的です。まずは少子高齢化の中で次世代の人材育成という目的というのはすごく適切だ
ったということがよかったというお話しでした。

続いて、市民センター近くの学校との連携がとれているというのがすごくよい。企画員の子
ども達も地域のことをよく理解することができていて——青陵中等はいろいろな地域から登校して
きているので、青陵がある地域のことをよく理解できているということがすごくいいということ
でした。

続いて課題・改善点というところで挙げられたのは、学校がやはり行事とか部活が忙しい時期
で、企画員自身集まったりするのは結構忙しいのかなと。方法論になると思うのですが、日程の
設定で連休中だと参加者が集まりにくかったかなとか、どのように広報とかしたらいいのかとい
うところも、少し話題として出ました。

次に進め方です。まず間違いなく市民センターのサポートがよかったと。当日に向けての企画
会が充実していたからこそ、当日の進め方がすごくよかった。具体的にいえば、例えば季節に合
ったハロウィンを題材にしていたりとか。企画員の皆さんが子どもの目線に立った形での企画運
営だったので、親子も皆楽しめた、アイデアとか手作り感とかすごくよかったというところ
でした。

今回の事業の特徴としては、一緒にやっている学校が中高一貫の青陵。6年間を通して学んで

いる学校の生徒が参加している、6年通して、ゆとりがある進め方をしている学生さんと一緒に取り組んでいることのよさはあったんだろうなど。

そういうことを考えたときに話題に出たのが、これがもし中高一貫ではなくて地域の、青陵以外の学校とも一緒にやってみることができたら、それはそれでまた違った化学反応とか、何かそういうのが起きるのかなど。どうなるのかわからないけど、ある意味楽しみでもあり、ちょっと見てみたいという話が出ました。実際そういうのをやるとすると、中高一貫ですと6年間ですけれども、地域の普通の中学校だと3年間ですので、忙しい中でどこまでそれが——青陵と同じように学校と連携をしてと考えたときには相手方の学校の理解も必要になってくるだろうということも考えられるということでした。

あと、方法のところはこちらにもつながっているのですが、成果物が当日できました。写真みたいな大きな絵になって、それを市民センターに掲示したということで、そこからまた、地域の人達とも広がりが見られるというのはすごくいいなど。

さらに意見が出たのが、今回は子どもとか親子対象でやっていますが、もしかすると、参加された大人が——委員の皆さんもそうですが、子どもだけではなくて高齢の方々とも一緒にやる機会があれば、さらに地域の関わりとかが広がって、市民センターまつりとかそういったところでもやれると。それはそれでまた活動の幅が広がるのではないかという意見が出ました。

最後に成果です。まず皆さん感じたのが、企画員の生徒さん達が素晴らしかったと。もともとなのかということもあったんですが、決してそうではないということで、企画とか運営している中で、その生徒さん達が自分達で学んで、この場を通して学び成長したというのが見られたというのがすごくよかったです。

また参加している小さい子ども達も企画員の姿を見て、憧れだったり、ああいうお姉ちゃんになりたいな。青陵中ってどうやったら入れるのかな。等の関心を持つ様子も見られたと。

やはり、人と人がいろいろ関わることで、学びが互いに深まっていったというのがすごくよかったという話が出ました。

以上になります、ありがとうございました。

会長：ありがとうございました。次は若者事業についてお願いいたします。

事務局（第3グループ担当職員）：はい、では若者事業「まいぷろ」についてお話しをします。

まず目的です。生徒達の身に着けたい力のアンケートがありまして、それを見たところ、子ども達は、コミュニケーション能力を身に着けたいとかプレゼンテーション能力を身に着けたいとか書いていたのですが、私達、初めての大人が入っていた中で、子ども達は普通に私達とコミュニケーションをとれていたし、講師の先生ともすごく円滑なコミュニケーションがとれていて、そういう意味で、子ども達の目指したコミュニケーション能力は身についたのではないかなという話になりました。

市民センター側としては、地域の人達や団体と協働して活動というところがねらっていたのですが、今回は市民活動サポートセンターや TOHOKU360 さんと一緒になって活動していたということで、この辺の協働、それから宮城野区内のたくさんのお店や施設とも協働ができていて、これも目標が達成できていたのではないかなという話もありました。

他の区の若者事業はすべて大学生ですけれども、宮城野区は高校生です。今回は高校生の学び

にすごく寄与しているのではないかという話になりました。

課題ではないですが、ものすごくたくさんのことを調べて、たくさんのことを考えて、素敵な記事を今作成中ですけれども、リーフレットにするだけではもったいない——紙面に入らないのではということで、冊子にしてみるのもよいのではとか。今回は Web 記事にして発信をする予定ですけれども、そういうのもよい。

それから、事業として継続していくと、子ども達は入れ替わっても何年か分の記事はたまっていて、例えば歴史ですとか子育てなんてカテゴリズされた、宮城野区のカテゴリー別の記事集みたいなのができるので、継続していくのもよいのではないかと。その中で、もしかしたら今回なかった新しいカテゴリズができるので、そういう未来につながっていく話にもなりました。

次に進め方です。まず、市民センターの持っている情報網とか人脈をとっても有効に活用した事業だったのではないだろうか。サポセンとか TOHOKU360 というのは学校だけではつながることができない団体なので、そういう意味では市民センターが入ることの意味がすごくあるのではないかという話になりました。

宮城野区の石川センター長から、市民センターとしてはぜひサポセンとつなげたかったというお話がありました。彼らが市民センターから離れた後も自分達で活動していける場所、それからその活動をサポートする人達がいる場所ということで、サポセンを紹介したかったと。その目的はすごく達成されていたような気がいたします。

あとは、大人が行くとなかなかこやかに対応してもらえない場所も、高校生が行くとすごくていねいに対応してもらったり、温かく受け入れてもらえるという話にもなりました。そうやって、高校生が地元を受け入れてもらうことで、今度は自分達が頼れる存在になっていける。自分達がもらった安心感を人に与えていけるような子達になるといいねという話になりました。

ちょっと若者事業から離れてしましますが、教員の話になりまして、教員こそ、こういう地域をコーディネートする情報網をたくさん入れたほうがいいのではないとか、市民センターと学校がもっと関わるといいのではないかというふうにも話が広がりまして、教員としましては耳の痛い話になりました。

あとは全体的なことになりますが、私達はどうしてもこちらから子ども達につながりたい、こちらから若者がつながりたいって考えるんですけども、実は地域に若者とつながりたい、子どもとつながりたいって思っている人達がいるんじゃないかと。そういう人達ともうまく連携をとっていったらいいねという話になりました。

全体としましては、宮城野区中央市民センターの高校生との距離感、それから安心感の与え方が絶妙だったねと。静かに BGM が流れる中で活動が進むんですけど、シーンとしないので、すごく話しやすいリラックスした雰囲気をつくることができた。

あとは TOHOKU360 の元河北新報の講師の方のアドバイスというのが、今すぐ感じることはないかもしれないですけども、すごく大事な視点を与えてもらって、大人になってからそのアドバイスが生きてくるよという話。

それから仙台市の若者が、まちづくりに関心があるかないかという新聞記事があって、その中で 8 割の若者がまちづくりに関心はある。その 8 割の中の 6 割は、関心はあるけれども今何らかの活動はしていない。ということで、これからもこの若者事業のニーズというか広がりの可能性があるねという話になりました。以上です。

会長：はい、ありがとうございました。それでは大人事業お願いします。

事務局（第1グループ担当職員）：では大人事業についてお話しいたします。

すごく楽しかったんですよ、当日。本当に。

今ここに、先生がつくった作品があります。これをつくるんです。とても楽しいので、来年はぜひ、大人事業にエントリーしていただければと思いますので、お願いします。

なぜ楽しかったのかというと、一番初めの目的の共有のときに、住職の方が、この機会を通して家族での会話が弾んでほしいと話をしたんです。やっぱりそこだろうなど。いきなり地域づくりをしようよって言っても楽しくないんです。でも、その初めの言葉で、大人の方々が、これは遊ばばいいんだ。みんなが楽しんでいこうっていう空気をつくれたのが一番よかったのかなど。

で、例えば竹細工ですけれども、ナタで割るんです。おっかないですよ。自分の子どもがナタで割ろうとしているときに、じゃ俺やってやるかみたいな感じでお父さんが割ったりすると、お父さんすごいと一気に英雄になるんです。それが家族関係をしっかりつくっていく。

ただそれがメインではないんです、地域交流をつくりたいので。それを今まで3年間積み重ねているこの会議で皆共有しているから、端端で、これがこうなったら楽しいよね、友達とやったら楽しいよね、地域でやったら楽しいよね。と声かけがあるので、一番初めのインドロダクションがスモールステップですけれども、どんどんどんどんそのステップが上がっていく、その過程がすごくよかったねというお話しをいただきました。

それを支えるのはやっぱり市民センターだという言葉をいただいてすごく嬉しく感じました。市民センターがニュートラルになって、途中途中で方向修正をしていく。企画員の中にも市民センターが入っているので、それで目的がずれないで進んでいるというお話しをいただきました。

また、大人事業なので、区中央から予算面のサポートとかもあったりとかして、それはこう充実しているなというお話しなんかもいただきました。

あとですね、この根白石のお寺で何とかってというのは、どんどんどんどん次につながっていくようで、実はことしで終わりなんです。

ことし、この方々は、やっていくことで充実感が上がって行って、先ほど事務局からお話しありましたけれども、10月の22日に、コメフェスっていう根白石のお米のフェスティバルを自分達で実施したんです。もう大盛況で、車も何百台も来て、バスも駐車場とピストン輸送で。それで、本当にやってよかったねという思いがあるので、たぶん来年は自分達でまた進んでいく。市民センターも、じゃあ終わりねではなくて、そこからサポートはやっぱりしていくので、それでどんどん地域づくりが広がっていく。とてもいい流れのベストケースだと思います。

自走していったときに何の不満もなく、自分達で地域づくりをしていこうって。なおかつ携わった方々が若い方々なので、これから何年も何年もこうやっていける。今度もし機会がありましたら、こういったイベント、来年のコメフェスにも参加していただければと思いますので、お願いします。

ただ、課題もまだありまして。続けていると、自分達の地域づくりだけではなくて、来る人達のアテンドで終わってしまうんじゃないのか、来る人達を楽しませることに目的が意識シフトしてしまうんじゃないのかという話がありました。ただやっぱり、この若い方々で、なおかつ目的意識も月に何回も話をしているので共有化されていきますから、そういった意味でも課題は解決

していきましょうと。

プラスアルファで、市民センターも手を放すわけではないので、市民センターの方向修正も入りながら、これからどんどん発展していく事業なのかなと思います。以上です。

会長：どうもありがとうございました。それぞれ3つの事業について本当に深いお話しありがとうございます。

では、全体通して、各委員の皆さんからも一言ずついただきたいと思います。

まず、大人事業の委員の皆さんから、一言ずつお願いします。

委員：とにかく見松寺に行ってよかったなって。もう楽しくて楽しくって。私もほかの委員と先ほどの竹でつくった器をつくりました。私たちは入ってはいけないだろうと思ってずっと見ていたんですけど、センター長さんが、やってみて、いやいいです、やってみて、いやいいですって言いながら、結局は写真に写されているんですが。

それで私と生涯学習支援センター職員と2人で、お子さんにあんな危ないことさせられないでしょって会話して。いや～ととてもとてもおっしやっていたのが、実際やってみないとわからない。最初やっぱり怖かったんですが、思いっきりナタを振ると、女性の力でもできて、市民センター長とか企画員の方もサポートしてくださって。最後は電動のやすりで削ってくださった。

そのときにいろんなことお聞きしたんです。というのは私も地域でいろんなことをやっていて、やっぱり難しいのが高齢者の方と若い世代との融合なんですけど、どうやってこの企画員8名の方が集まったんですかって言ったら、いろんな職業の方だったんですね。仲のいいグループだった人たちが来たわけではなく、全然違う職業の人たちが集まって、最初はPTA会長から始まってあといろんなところからお声がけをしてもらって集まった企画員ですってことでした。本当に若くて動く。

それプラスお寺さんって、私はお墓参りをするとか法事をするとかのイメージなんですけども、先ほど事務局がおっしやいましたけども、その住職さんが最初、きょうはとにかく家族の時間、みなさんで楽しんでくださいねって。そして地域のよさを知ってくださいねっていうところから始まったんですけども、お寺の作務衣を着ていた住職さんが作業着に着替えていて、最初わかんなかったんです。なんかナタを使って、こういうふうにするんだよって説明を子どもたちの前でした方が、あれっさっきの住職さんだっと思うくらい入り込んでいて、それでお寺さん同士のネットワークもつくっているってこと聞いて、なんてすごいだらうって。

ただ心配っていうか気になっていたのが、持続可能性ですよね。地域って楽しくないと持続していかないんですよ。でもこないだのイベントを見て、楽しいからきつと続くだらう。それから今まで高齢の方たちが頑張ってきている、そこからどうやってバトンタッチしていくのかなっていうのも、たぶんうまくいくだらうって。

ただそこには市民センターさんの力がものすごく大きくなって思いました。どうしても私たち地域って2年か3年の企画で終わっちゃうんですよね。そこを先ほどちょっとお聞きしたら、いや少しづつ少しづつって。あっなるほどなって。皆さんがそれぞれサポートしていけばこれは可能になるんだらうなって、きょうここでこの振り返りですごく実感しました。

とにかくまた来年行きたいなって思うような企画でした。ありがとうございます。

委員：住民参画・問題解決型ってことでは、本当に繰り返しになりますけども、自分たちで楽しんでと言いつつも、ちゃんと地域の問題を解決するような方向に主催者側が向かっているなというのをすごく感じました。あと地域資源っていうものを——お寺も含めたり、そういうリーダーシップをとりそうな若い人たちとか、能力を持った人というのをよく見つけてきているなど、市民センターの活躍を本当に感じました。

楽しいことから入るところでは持続していける企画だなんていうのをすごく感じましたし、本当に参考になることがいっぱいあって勉強になりました。ありがとうございます。

委員：今回は根白石のほうに行かせていただきました。さっきお見せしたこれです。竹をパコッとナタで割って——割っているところは先ほど画像で出ておりましたが、やすりで削ってくださって底のほうも平らになるようにカッティングしてあります。これを大きな寸胴でお湯をぐらぐら沸かして煮沸して、アクをとって乾かして使ってくださいということで。

実はこのお寺で座禅をして竹細工をした後日、コメフェスっていうイベントがございまして、これにも行ってまいりました。その中でこの竹細工が500円ぐらいで販売されていまして超ラッキーと思いました。

竹を切り出す、それから準備をするところから企画員さんみんなそれぞれ時間のあいているところで無理なくやっていたよっていう話も伺うことができ、きょうの話の中でも、たとえば子どもにナタを使わせるにも、何が大事かということ、切れるものでなければ危ないということ、市民センターのほうでその辺のサポートをずっとしてくださっているという話も今日伺うことができ、本当に地域の方、それから地域館、そしてセンターさんの三位一体となっているところがうまくバランスとれているなということが今日改めて感じることができました。

やはり家族でのふれあいを大事にしながら、喜び楽しいことと、それから興奮と達成感、この三つをうまく成し遂げられたのが今回の講座だったのではないかと。そこに至るまで何回もお話しを重ねながらやってこられたということを非常にしみじみと感じることができました。

お寺で何々っていうと、街中でもお寺でジャズコンサートとかクラシック聴きましょうとかありますけども、地域の資源を生かして高長商店っていう古い昔ながらの店があったりとか、biz creek cafe っていう超いまどきの商業施設ができたりとか、皆さん地域の活性化には前向きでいらっしゃるんで、ぜひモデルケースとして、過疎化それから少子高齢化に悩む他の地域は情報として知っていただきたいなと思った講座でした。ありがとうございました。

会長：ありがとうございます。

途中ですが、皆さんやっぱり体験とか参観されるとやっぱりいつもよりも白熱になりますよね。若干もしかして予定よりも過ぎても大丈夫でしょうか——では皆さん引き続きよろしく願いいたします。

委員：私は子ども事業に参加して、参加はいいですいいですなんて言いながら、もうばっちり参加してきました。すごく楽しかったです。

で、子ども事業なんですけども、老人は何歳から子どもになるのかちょっとわからないんですけど、老人は子どもに戻るといことなので、この子ども事業も、そんなに危ないとか、体を動かすとかでなかったら参加できますので、お化けをつくったりランタンをつくったりとても楽し

かったんです。先ほども家族のお話し——孫が来たら、こういうのつくったよとかそういうこともお話しできると思いますので、低学年のそういう手作業だったら子供と一緒に老人も参加したいと思いますので、市民センターさんからそのあたりちょっとでもお声がけしていただければ私達も参加するのが楽だと思います。

それでいろいろつくって最後に壁紙みたいに絵をつくったんですね、パズル。それも市民センターに飾っていただけということなので、私たちが行って、あれつくったんだよとか、孫もつれて行ってこればあちゃんつくったのとかって。そういうように地域が楽しくできるようになったらいいなと思っております。

また、企画員2人の方が高校生というか5年生って言ってましたね。その2人は食べ物は何が好きですかって問いにお米って答えたんです。それにはすごく感心して、まあ今後農業が安泰だなと勝手に思っておりました。

以上です。ありがとうございました。

委員：私も中山市民センターの事業に参加しました。それで一番感じたのは、やっぱり人と関わることで学びが深まるんだなっていうことです。特にコロナで人と接触が無かっただけに、こういう活動というのが今後非常に求められるだろうなというのを感じました。

それから大人でもそうですけど、やはりイベントなんかを本当に失敗なくきちんと終わるといのはものすごい計画性が必要だし、それからいろんな配慮も必要ですよ。臨機応変さも必要なので。そういうことを高校生の子供たちがきちんとできているというのが本当に素晴らしいなと思いました。市民センターさんがちゃんとサポートとしていろんな配慮をされているっていうことで、連携がすごくうまくいっているということを非常に感じました。

それからこの事業、日曜日に参加させていただいたんですが、実は私、水曜日に1年生のゼミを持っています。だいたい保育士とか小学校の先生を目指している学生たちなので、型紙をいただいていたんですね、それで学生と一緒にやって、帽子を付けたり、こういう飾り付けたりとかそういうので楽しんだりしました。

私も自分が教える立場なものですから、人に教えてもらうってことが、こんなに身につけて、しかも楽しいってことを改めて感じて、これからはもっと教えていきたいなと。そういうことを感じさせていただきました。

どうもありがとうございました。

委員：私は青陵インパクト in 中山キッズに皆さんと参加してきましたんですけど、同じようにすごく楽しい思いをしてきました。おみやげもこのほかにカボチャのランタンにもなるし小物入れにもなるというのを一緒にいただいてきて、家でもちょっとつくってみたりしました。

一番感じたのは、青陵中等教育学校が1年生から6年生まで6年間、テーブルでもお話し出たんですけど6年間同じことを共有できる、それが青陵中等教育学校としてのメリットかなということはお話しが出ました。

市民センターの強力なサポートをすごく感じたのは、生徒さんがのびのびとやってて、いろんな子どもたちに生徒さんたちがすごく目を向けてるってことで、自分たちでやりたいとかきょうだいで一つしかもらえないとかと泣いているところに、ささっと生徒さんが行って子供に目線をあわせてお話ししていて、ちょうど子どもの気持ちもわかるし、あと自分が関わっているお母さ

んの気持ちもわかるのかなって。生徒さんが安心できるのはやっぱり市民センターのサポートのおかげなんだと強く感じました。

私、先日、青陵のプロジェクトの最初のころのメンバーだった生徒さんの、メディアテークでの成果発表会のときいらしてた親御さんと会う機会があって、行ってきたんだよってお話したんですね。娘は今は大学生になっていて、続いているのかすごく心配していたと。こういう感じだったよってお話したら、とても喜んでくれて、娘もとっても喜ぶと思うと。こうつながってくのがいかに大事というのもすごく感じました。

以上です。ありがとうございます。

委員：はい、今日はどうもありがとうございました。

私は宮城野区の若者事業でまいぷろというのに参加させていただいたんです。やっぱり高校生の子どもたち 11 名が、自分たちが課題として考えた五つの事業それぞれに取り組んで、取材をして、それを記事としてまとめるという事業だったんですけれども。高校生がこんなにしっかりしているんだと。

自分の高校時代を考えたら本当にしっかりした子どもたちで、例えば歴史民俗資料館だとか、子育てだとか、それから食についてだとか、そういったことに真剣に向き合っている。しかもそれに元河北新報の記者さんが本当に絶妙なアドバイスをしてくださっていて、例えば現場で感じたことをそのまま書いていいんだとか、自分だけではなくて第三者の目線で伝えないと伝わらないんだよとか、そういったものを高校生の時代からプロの方の指南を受けて記事にまとめるなんていうのは、本当うらやましいなっていうぐらいですね。

だから彼らがコミュニケーション能力とかプレゼンとかいうのを身に付けたいというふうにさっきご紹介ありましたけれども、この事業を受けたら十分身に付くだろうなっていうぐらいですね、それだけ市民センターが間をとりもって民間でや地域の方だとうまく結びつけて、リラックスした状態で子どもたちが取り組めるような事業になっているんだと感じました。とてもうらやましいなと思いました。

どうもありがとうございました。

委員：私も若者事業まいぷろのほうに参加させていただきました。市民センターに到着したときは調理準備室の中に入っていってちゃんと受け入れてもらえるか心配だったんですけれども、高校生さんが絶妙にですね、得体の知れない大人の相手をしてくれまして、本当にコミュニケーションも上手だし、雰囲気も非常にいいなと感じました。

本事業はコミュニケーション能力とかそういったところに焦点が当たっているのですが、先ほどの委員もおっしゃっていたんですが、記事を書くというプロセスの中で非常に深まりが見られているなというのが率直な感想です。例えば子育て支援ですと少子化の中で子育てする場所がないということの問題点ですとか、あと歴史民俗資料館だと、こんな狭い寝床で寝て暮らしていたんだみたいな戦争の悲惨さみたいなものにも高校生さん気がついていましたし、グルメのほうもですね、ただ単にそこに行っておいしいものを食べるだけでなく、地元のものを使っているだとか、いかに無駄をしないようにしてるかとかそういうとこまで気づきが得られていたので、単にコミュニケーション能力じゃなくて、いろんなものをつなげて考える力とか、批判的に見る力とかそういうものが育っているなど、本当にいい学びになっているのかなというふうに思いまし

た。

であとは今回、インターアクトクラブさんということだったんですけど、今、学校のほうは部活が地域に力を借りるといった傾向がますます強まっていますので、今後そういった面でも市民センターが貢献できるんじゃないのかなど。私学校教育の人間なものですから、考えながら見せていただいたところです。

どうもありがとうございました。

委員：私も若者事業に参加させていただいて、高校生に声をかけて仲間に入ろうなんて思っていたのでちょっとときどきしました。先ほどみなさんがおっしゃっていたようにコミュニケーション能力を育てたいという人たちなんだなって思っていたら、もう全然その上をいっている方々でした。

今回このまいぶろってということで、私も色々調べさせていただいたんですけど、ことしだけじゃなく去年は何をしていたんだろう、その前は何かをしていたんだろうって、すごく興味を持って調べさせてもらいました。彼とか彼女たちが関わっているクラブがインターアクト部っていうボランティアをする部なんですけれども、学校ではそのインターアクト部をやっている、普通のボランティアプラスアルファでどんどん世界を広げていく、世界を見るような形のボランティア活動をしているという部活だったんですね。もう太刀打ちできない状態で、すごく前を向いている方々なんだなっていう。

この子たちが宮城野区について一生懸命調べて、それでいろんな人たちに思いを聞いたり、参加させてもらったり、お祭りに行ってみたりとかそういったことで、どんどん知識というか自己肯定感っていうのが身についていくのが目に見えてわかるので、本当にこれからも楽しみにしていけるし、ワクワクさせていただけようと思っています。

ありがとうございました。

会長：どうもありがとうございました。

きょうの我々は評価員というよりも、それぞれの事業の広報員みたいな感じで。まさに現場からの学びっていうのは人を熱くするものですね。ありがとうございます。

皆さん、仙台市の公運審のホームページで会議の様子とか見ていらっしゃいますでしょうか。この場はホームページで公開されています。今日のホワイトボードに具体的に書いてありますので、ぜひそれぞれの市民センターさんと今回事業を運営なされた市民の皆さんに紹介いただいて、仙台市民を代表して委員たちで皆さんの活動を評価して成果を検証しているよというようなことをお伝えいただくと、全体の大きな PDCA サイクルのような感じになるんじゃないでしょうか。まずご苦労様でした。

それではこのままの席で、もう一つ議題がありまして、(2)の今後の進め方についてということについて確認させてください。

これは我々の任期中の任務のことについてです。確認ですが、昨年度の11月に住民参画型学習事業の諮問を受けて、成果の確認と今後の展開について今議論を深めていまして、我々の任期終了が来年10月です。そこまでに支援センターに答申するというのが我々の役割です。

それについて、今後の計画の流れについて副会長と事務局と一緒にちょっと案を作成しましたので、事務局より説明お願いしたいと思います。

事務局：はい、それでは資料の3をご覧いただきたいと思います。

今後の進め方についてでございます。きょうの話も受けて、来年1月26日の定例会ではこれまでの議論の総括を行いたいと思います。それから答申案作成の手法であるとか、構成あるいはスケジュールといったところを、我々事務局のほうでお示いたしますので、それについてご協議いただきたいというふうに思います。

それから3月16日の定例会ですけれども、事務局のほうで会長、副会長の意見を聞きながら答申案の骨子を作成していきたいと思います。それをみなさまにお示いたしますので、そこで色々ご意見を頂戴したいと考えております。

それから来年の5月18日の定例会ですが、答申案の中間案をお示ししたいと思います。それをご覧いただきながら委員のみなさまからご意見をいただきたいというふうに考えております。

それで7月6日の定例会ですが、答申案の最終確認をここでやりたいというふうに思います。

それを受けまして8月31日の定例会で答申を提出いただき、今期の審議会の総括をしていきたいと思っております。

この住民参画型学習事業は市民センターの骨格になるような大事な事業ですので、今後よりよい方向になるように答申案をまとめていただきたいと考えております。

我々事務局のほうで原案の作成はいたしますけれども、皆さんから忌憚のないご意見を頂戴し、よりよいものにしていきたいと思っておりますので、何卒ご協力のほどお願いいたします。

会長：ただいまの説明について、皆様からご意見や質問などございますでしょうか。

[発言なし]

会長：今までの公運審の答申などを見ていくと、作業としては最終段階のほうは、まさに先ほどまいぷろの編集という話がありましたが、我々がみんな編集員のようなイメージで、文字文言を吟味して、最終的に答申をお出しするというふうな流れになるのかなと思います。よろしく願いたします。

ではマイクをお渡しいたします。

3 その他

事務局：はい。それではきょうも一日ありがとうございました。

最後になりますが、皆さんから何かご意見やご質問等ございましたら頂戴したいと思いますが、よろしいでしょうか。

[発言なし]

事務局：それでは今日も長時間にわたってありがとうございました。

4 閉会

事務局：次回の会議日程でございますが、令和5年1月26日、木曜日、午前10時から開催で、会場

は生涯学習支援センター5階第1セミナー室を予定しております。開催案内は開催1ヶ月ぐらい前を目安にお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

最後に、資料の取り扱いについて重ねてお願い申し上げたいと思います。本日お手元に配付いたしました受講者アンケート及びグループ討議に使用した現地視察の写真につきましては、この場限りの取り扱いといたしますので、持ち帰りなさらずに、机の上に置いていただければと思います。

それから、現地視察の際に作成いただき、本日ご持参いただいております事業視察時の評価シートにつきましても、事務局にて回収いたしますので、一緒に机の上に置いていただければと思います。

以上で本日の会議を終了いたします。皆さん本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

以上

会 長

会議録署名委員
